

講義名	情報通信産業論			授業形態	
担当教員	寺口 敏生	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

情報通信技術の発展に伴い、情報通信を用いた様々なサービスが開発・提供されている。特に1995年以降、一般の消費者まで普及したインターネットは、スマートフォン等の情報機器の普及に伴い加速度的に利用場面が拡大しているという社会的背景がある。本講義では、学生にとって身近なサービス（Web検索、ネットショッピング、SNS等）の紹介を導入とし、情報通信産業がこれまでに社会に与えてきた影響と、日本を含む世界が目指す将来の社会像を把握することを旨とする。

到達目標

本講義では、情報通信産業の現在と将来の見通しを把握し、第三者に説明できるようになる。

提出課題

講義中に、講義内容に関するレポート課題を出題する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レポート等のフィードバックは終盤の講義中に行う。

評価の基準

期末試験は実施せず、講義中に出題するレポート課題にて評価する。レポートの内容は3段階評価とする。レポート課題は、基本的に次回講義までに提出することとする。

履修にあたっての注意・助言他

2回目以降の講義資料は、講義開始前にWeb経由で提供する。レポート課題は、事情の説明があれば期日後も受け取るが、配点が少なくなる点には留意されたい。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.なし。				
------	--	--	--	--

その他

授業計画

1. ガイダンス
2. 情報通信産業の概要と事例
3. インターネットの歴史
4. SNS
5. Web広告の仕組み(1)
6. Web広告の仕組み(2)
7. クラウドサービス
8. AI技術の事例
9. AI技術を用いたサービスの事例
10. SDGsと情報通信産業
11. 現実世界の情報通信の活用
12. SDGsと情報通信産業
13. 新しい情報通信サービス
14. 講義のふりかえり
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義中に紹介した内容は、必要に応じてインターネットや書籍を用いて復習し、講義内容への理解を深めて欲しい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「様々な産業にて活用されている情報システムの仕組みの理解」と「ITに関する専門知識や情報処理能力を用いて様々な問題に対する解決策を提案する能力の獲得」を達成するための科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義に関する質問は、講義時間外でも随時受け付ける。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。具体的な情報処理技術や事例を基に講義する。

備考